

東 學 Gaku AZUMA

『天 獄』



2013年 3月30日(土)～ 4月21日(日)

12:00～19:00 月曜休廊 (最終日～17:00)

Reception for artists 3月30日(土) 17:00～

既成の水墨画の技法にとらわれず、“墨”そのものによる描線で「墨画 (bokuga)」という手法を編み出してきた東學。伝統的技法である“ぼかし”の濃淡はなく、髪の毛、肌の輪郭、着物の柄に描かれる様々なモチーフは、すべて「線」で描くという独自性を貫いています。

今回の展覧会『天獄』では、生存のための殺戮に溺れる人間の宿命をイメージする世界を繰り広げます。

地球上で繰り返される人類の愚行を嘲笑し、天獄へ誘う妖気あふれる女神たち。

画面を構成するすべての極細の線は、東の手にしっくりと馴染んだ「面相筆」と「平筆」から生まれます。

極められた描線と陰翳がもたらす墨画世界に、どうぞご期待ください。皆様のご高覧をお待ち申し上げます。

Gaku AZUMA invented his own style of "Bokuga", his original line-drawing in Indian ink.

"Tengoku" shows the destiny of human and the goddesses scorning all the foolishness on the earth.

Every fine line formed by the "Menso-fude" and "Hira-fude" constructs the world full of delicate shades of Indian ink.

『天 獄』

地球は美しい星である。

命が何処かしこで息づき、
『生き残るため』にそれぞれの華を咲かす。

しかしながら、
命が満ちあふれているということは
互いに何かの命を奪って生活が続けている。
ということに他ならない。

“弱肉強食”は自然の摂理。
弱い者は喰われ、より強い者がそれを喰らう。

どんな生物の集合体にも必ず強いもの、弱いものが存在し
その強弱の『階級』は知能レベルが高くなればなるほど、
区別から差別へと意味を転じる。

特に人類の歴史の中で区別、差別する為の
『階級（ヒエラルキー思想）』は
次第に『至上主義』となり
後に『ホロコースト』となってきた。

本当に神様がいるのであれば
神様達が一番悲しむべきではないか。
なぜなら人間がひきおこす戦争の、
原因の多くは『至上主義』思想であり
その根底にあるのはそれぞれの宗教だったりする。

『天国』とは生命体の無い星とは言い切れないか。
命が無い世界ならば
生きることも 死ぬこともなく
奪い合うことも 殺し合うこともない。

そう考えるならば、
地球という星自体『地獄』。

しかし、このような思考も
全て人間の思考し得る範疇での
結果論でしかない。

地球はカオスで、
命の喰い合いで地球は地獄だ、と思うのも結局人間のエゴ。
そう考えることさえも、結局のところ人間のエゴ。

しかし人間のエゴさえも自然の一部ということなれば、
この愚かしい足跡の数々も、
宇宙の、地球の、自然の摂理の一部でしかないのだ。